



# 第17回Wリーグ プレーオフ・セミファイナル 第2戦 会見要旨



## シャンソン化粧品 シャンソン V マジック(1勝1敗)

### ■チョン・ヘイル ヘッドコーチ

(試合の感想) 皆さんが見た通り、前半素晴らしい試合をして、後半最悪な試合をして逆転負けをした。これだけリードして負けたのは、自分の30年のバスケキャリアで初めてかもしれない。ただ、この中で、相手は64点、うちが58点、もう少し頑張ればなんとかあったかもしれない。第3Qは、足が止まってしまう、相手のポイントガードに捕まり23点差つけられ逆転された。最悪同点と考えていたし、またクロスゲームを予測していたが、ここまでとは考えていなかった。シャンソンは、まだまだのチームです。第三戦はどうなるか分からないが、ちょっと嫌な感じをしている。

(ハーフタイムを振り返り) 25点リードしているので、第3Q以降は相手をもっと向かってくるから、気持ち的な面などをもっと厳しくすべきだった。試合に負けたらヘッドコーチの責任。流れが悪いときに、交代を使うとかできたはず。気持ちの面では、前半シュートが入り過ぎた為に、意識はないが選手が安心し過ぎたかもしれない。そこまで読んでチームを引き締められなかったは私のミス。非常に残念、クロスゲームで負けるより、残念。

今日の負け方は良くなかったが、私の役割はチームの気持ちを切り替えること、細かい点や問題点を修正することです。明日の1日を利用して、練習で修正のポイントを確認したい。ただ、練習より大事なことは、選手の気持ち。選手の気持ちが一番大事なので、一人一人が考えて欲しい。

### ■#12 三好 南穂 選手

前半は、いい形でスタートし25点差つきましたが、後半は自分のミスからチームの雰囲気悪くしてしまい、相手に流れを渡してしまったので今日の負けは自分の責任です。

オフェンスで足が止まって、シュートが入らなくなってきたので、どのように点数を取るのかを考えてしまい、その時点で気持ちに迷いがあったと思う。その迷いが、チームに悪い影響してしまったかもしれない。昨日はどのプレーも引き締まってきたが、今日はどのプレーにしたら良いのかと迷ってしまった。

### ■#6 本川 紗奈生 選手

(試合を振り返り) 後半、相手にやられすぎたのと、自分達はリバウンドにルーズになってしまった。HCのチョンさんもいったように、第3Qでやられすぎた。相手に追い上げられてきた時は、(途中で選手を集めて) 見に来てくれている人がいるので、最後まで自分達のバスケをしようとチームに声をかけた。今日のことは切り替えて、明後日の試合に向けて準備をしていきたい。



# 第17回Wリーグ プレーオフ・セミファイナル 第2戦 会見要旨



## 富士通レッドウェーブ(1勝1敗)

### ■BT テーブス ヘッドコーチ

前半と後半でこれだけ差のあるゲームを例える言葉はない。勝った事は嬉しいが、今の気持ちはとても複雑な感じである。シャンソンの出だしは凄く良かったし、今日も勝ちたい気持ちが凄く伝わってきて、オフェンス面でもディフェンス面でも全部ダメだった。富士通は攻撃性が欠けていて、1対1でファイトが感じられなかった。前半は昨日の試合と同じようにこのままボロボロと負けてしまうのかという雰囲気だった。とにかくハーフタイムで本音の話をした。逆転は難しいかもしれないが、後半スタートの2、3分でリズムや試合の勢いを掴んだら、試合の勝敗はどうなるか分からないと。富士通に入ってからずっと言い続けていることだが、このチームは町田選手がチームエンジンであり彼女が機動しないと攻撃は成り立たない。後半の逆転劇のきっかけはそこだと思う。後半は全員切り替えができて、いつものレッドウェーブらしいバスケットができた。BTマジックかもしれない。

ただ、ここまで開いた点差を詰められたのは、勿論HCの指示のだけではない。もういちどマンツーマンディフェンスをしっかりとやろう、ペイントエリアを攻めようと選手に話した。最近フェイスアップという言葉をよく使っている。フェイスアップをした後ディフェンスの反応によって、ドライブチャンスがある。攻撃意欲がないから、前半ボロボロに負けた。次の試合は、最初から強い気持ちで臨むことで言い訳などしないレッドウェーブらしい攻撃的なプレーをしたい。

### ■#10 町田 瑠唯 選手

前半は、相手の気持ちのほうが強く、やられたくない3Pを8本も決められた。一方、自分達は、イージーシュートを外したり、ミスが多かったりと25点差をつけられた。自分も得点ができていなかったの、積極的に打っていかうと思った。チームとしても、後半は25点差あったので、とにかく攻めるしかない、プレッシャーディフェンスをするしかない全員が強い気持ちで戦った。結果、自分達のプレッシャーディフェンスも機能し、ブレイクにもつなげられて良かった。相手のセンターがファールトラブルだったので、そこを攻めようと思った。キャプテンとして、チームからリーダーシップを求められているが、自分は言葉でリーダーシップを取るタイプではない。今日の前半、自分自身のプレーの調子は良くなかったが、後半切り替えることはでき勝利に繋がった。

## ■ #0 長岡 萌映子 選手

前半は、ターンオーバーも多く、気持ちも足りなかったことが、あの得点差とあのバスケットにつながった。後半、第3Qだけでも29-6と、自分達はやればできると強く思った。出だしが悪い事と試合の波があることが課題である。この課題を明後日の第3戦で克服しないといけない、自分を含めてもう一度気持ちを立て直さなくてはならない。

後半、ターンオーバーをもっと気をつけようと思ってプレーしたこと、また誰にも負けない強い気持ちを出したことが良かったと思う。チームから自分が求められている事は、声を出す事で、前半はチームがバラバラになってしまったので、声でチームを纏めようとした。また、しっかり得点を取ることも求められているので、そのリーダーシップをもっと取っていきたい。



# 第17回Wリーグ プレーオフ・セミファイナル 第2戦 会見要旨



## デンソー アイリス(1勝1敗)

### ■小嶋 裕二三 ヘッドコーチ

まず JX さんは強かった。昨日は完敗で、今日はこちらのディフェンスを強くしたが、第 2Q は相手のシュートの正確さ、ディフェンスの強さをまじまじとみせつけられた。後半から少し挽回したが、それでも一桁だった、これからというときにシュートを決められて先行された。あのプレーの正確さは是非見習って我々もなんとかしないとイケないなと痛感した。

第 1Q は、プレッシャーやディナイといったディフェンスを昨日より強くしたことで相手も少し面くらった感じがあり上手いきました。第 2Q になって、少しファウルが嵩んだり、イージーなプレーをやられて消極的になったってしまっただけで、もう 1 回強いディフェンスをすること、オフェンスでしつこくドライブするかボールを大きく動かすなど指示をだした。デンソーは、高田選手が得点を取るパターンと高田選手が回りを活かして得点を取るパターンがある。今日は、マークがきつかったという部分もありますが、自分で得点が取れない分味方のチャンスメイクで頑張ってくれていた。これがチームとしてもっと連動していれば良いのが課題であった。2 人目まで連動するのだけれど 3 人目が連動できない。3 人目まで連動できるが、4 人目まで連動できないなどというプレーが多かった。コート上は 5 人ですが、あたかも 6 人目、7 人目まで連動するようなプレーを作っていかなければならないと思った。また、やればできる選手達ですが、尻に火がつかなければやらない傾向があるので、コーチとしてもっと火をつけなければと感じた。

(来季へ向けて)2 年前にファイナルにいったから、その遺産を食いつぶしている感がありますので、この牙城を崩すには、一からというよりはゼロからの出発で構築していかななくてはならないなど思い切ったことが必要となると感じた。今日の試合でも、JX さんは確かに強いが、デンソーの時間帯もあった。デンソー以外の 3 強チームは JX さんを倒しているように、弱点をしっかりとつくようなしたたかなチームを作ることが必要だと思った。

### ■#8 高田 真希 選手

個人的なことですが、自分の得点が少ないので、そこに敗因があるのではと思う。味方のプレーに合わせてシュートをするが、シュートを決めきれなかったし、まだまだ実力不足だと思った。ノーマークを作るとか相手のディフェンスを振り切るなどの技術とプレーの質をもっともっと高めないとイケないと思った。この経験を無駄にせず、ひとつの経験として次につなげたい。

#### ■ #41 伊藤 恭子 選手

昨日と違って出だしをしっかりとできたが、第2Qは自分達が決めるべきシュートや、守るべきところを徹底して守り続けることができなかった。そこができていたらもう少し良い展開になったと思う。相手の身長が高い分、自分達がコートを広く使って動くことが必要だった。自分達が動くことによって相手の選手が外にでてくる、その空いたスペースを攻めることが出来ていたからもっと活かそうと思った。第2Qになって、少しボールが止まってしまったので第3Qからまたしっかりやろうと考えた。ボールが止まった理由は、ディフェンスのところでやられてしまい、思い切りの良さがなくなってしまったかもしれない。今後については、どのようにプレーしたら上手くいくかなど、この経験を今後活かしていくことが大事だと思った。



# 第17回Wリーグ プレーオフ・セミファイナル 第2戦 会見要旨



## JX-ENEOS サンフラワーズ(2勝0敗)

### ■佐藤 清美 ヘッドコーチ

一試合を通してデンソーさんの気迫に押されながら戦ったゲームという風を感じています。その気迫にうちの選手たちが耐えて勝利することができました。

(ハーフタイムの指示に関して)前半11点差でしたが、前のゲーム(富士通対シャンソン)でもあれだけの大差がついていても逆転されるということがあるので、もう一度、気を引き締めてやろうということを示しました。また、第2Q の感じがオフェンスもディフェンスも良かったのでそのまま続けることをチームに話しました。

(残り1分でベンチメンバー出したのですが、また最後のタイムアウトを取ってスタートにしたあたりの心境は)スタートメンバーを40分使うつもりでしたが、15点くらい離れて残り2分で少しは選手たちに経験を積ませたいなと思っていました。あの状態でもスリーがもう1本入っていたらゲームが分からなくなっていたので、そうならないようにと代えました。

(ファイナルへの抱負)もう、相手がどこでも自分達のバスケットをやるしかないと思うので、それを積み上げていきたいと思っています。あとはフリースローの練習をした方がいいかなと思います。

### ■#10 渡嘉敷 来夢 選手

今日の試合で感じたことは、しっかり自分達で我慢するところは、我慢して立て直すところは、立て直せたのかなって思っています。昨日、外でボールを持っているときにあまりプレッシャーを感じなかったので、今日はまずボールを持ったら積極的にシュートを打っていこうと思った。すると思いのほか入ったので、ファイナルでも続けて行けると感じた。後はもうちょっと中と外のバランスで、個人的にもう少しポストアップしてもよかったのかなってこの試合では思った。

(ファイナルへの抱負)8連覇もそうですけどやっぱり本当に目の前の試合、3勝して優勝したいと思っている。佐藤HCもおっしゃっていたが、大差で勝つ必要はないと思が、相手チームよりも1点でも2点でも勝てばいい。そういったゲームをしたいって訳ではないですが、自分達のバスケットをしっかりとやって、1戦1戦をしっかりと戦って優勝したいと思います。とりあえず早く終わらせたいです。

## ■ #21 間宮 佑圭 選手

第1Q からデンソーさんの気持ちが、コートにすごく現れていた。それでも自分達のペースをつかみ取り、押されながらももしっかり自分達のプレーを立て直せたのはよかったかなと安心しています。

今日は相手に合わせることなく、自分のペースで最初から気持ちを出して戦っていこうという思いでコートにたった。それが出だしのプレーからすごく良かったと思うので昨日の反省は活かされたかなと思います。昨日の試合も、勿論意識して合わせた訳ではないですけど、振り返ってみた時にコーチのトムさんとも話して、やっぱりそのペースを合わせてしまっているということがあった、やはりそうなるとうと自分のペースにも持ってくるのが難しいし、調子も出てこないなというのを感じたので、今日は特に意識したという感じです。

(ファイナルに向けての抱負は) やはりもうここまで優勝を積み重ねてきているので、今まで築き上げてきたプレーヤーだったりスタッフだったり、そういうJX-ENEOSの伝統というのを守れるように今のチームの一員として恥じないようにプレーするというのは当たり前だと思います。その伝統というのを続けられるように一つの優勝というのにしっかりかけて戦いたいと思います。